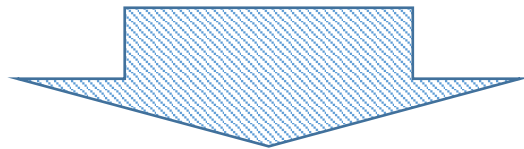


新型コロナウイルス感染症影響下における高齢者の実態調査結果

「つながり」の減少と「つながり」のニーズが見られた。

新型コロナウイルス感染症が確認されてから7ヶ月間の高齢者の生活や心身の状態の変化について、健康感*や運動機能など身体的状態の変化は見られなかったが、外出や人との交流、サークル活動などの機会が減少しており、心の状態にも低下が見られた。特に、感染症拡大前は外出や交流等が活発だった健康感の高い方でその変化が顕著に見られた。

また、感染症影響下における調査で、心身の健康のために「外出や運動がしたい」「人と交流したい」「バランスの摂れた食事がとりたい」というニーズが健康感に関わらず多く見られた。

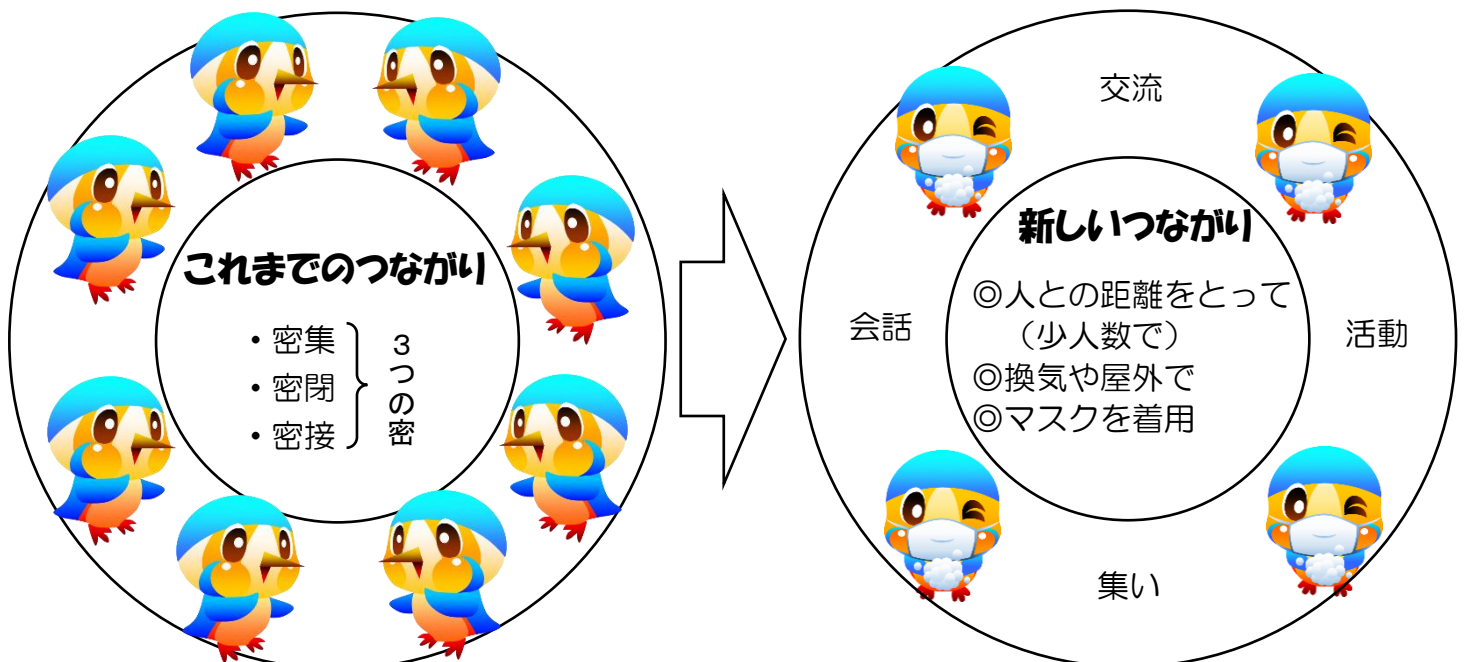


『ウィズコロナ、アフターコロナにおける新しいつながり』づくり

このような結果を受け、要介護状態のリスクを伴う高齢者の閉じこもりの長期化を防ぐため、感染症影響下においても、人や社会とのつながりを持ち続けることが重要であるという認識に至った。

本市では今後の元気高齢者施策の展開として、外出や人との交流機会を増やし、感染リスクを避けつつ社会とつながっていくことを目指す『ウィズコロナ、アフターコロナにおける新しいつながり』づくりを進めていく。

新しいつながりのイメージ



感染症拡大前と感染症影響下での高齢者の生活や心身の状態の変化

1. 【身体の状態】

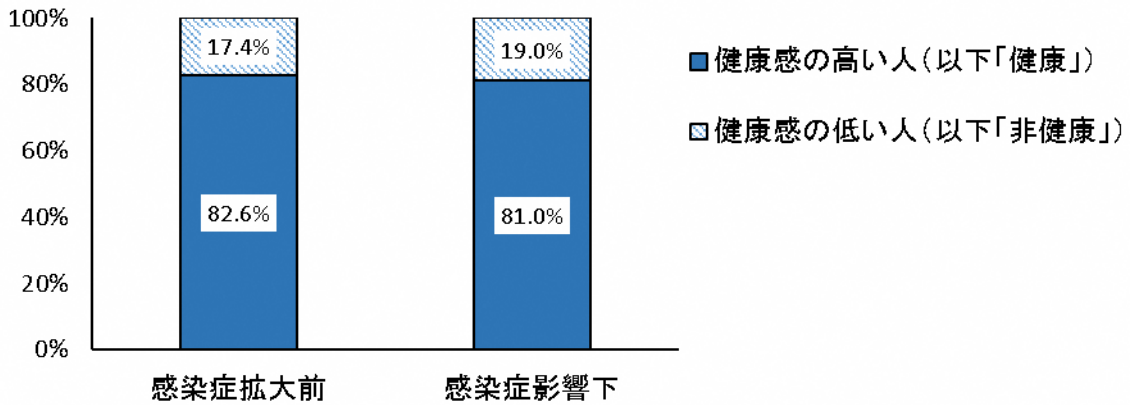
主観的健康感や運動機能には変化は見られなかった。

(主観的健康感の変化)

主観的健康感には変化は見られなかった。

主観的健康感の変化

現在の健康状態を「とてもよい」「まあよい」と回答した人を健康感の高い人、「あまりよくない」「よくない」と回答した人を健康感の低い人とした。

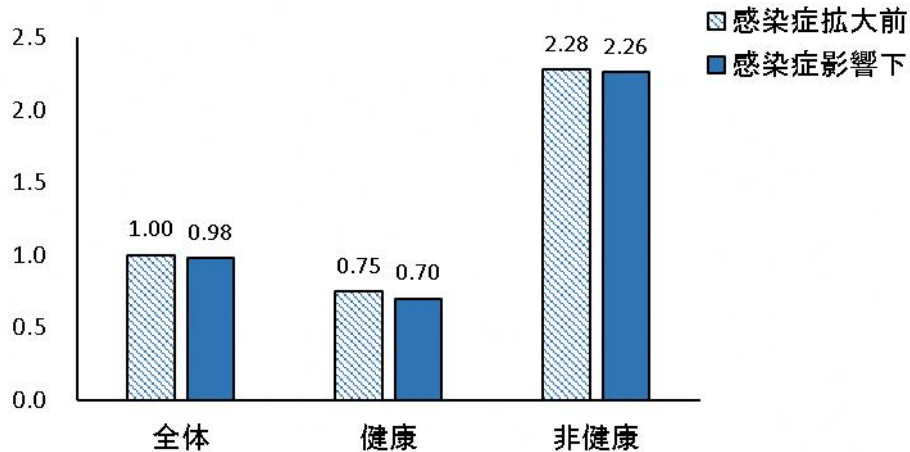


(運動機能の変化)

運動機能は健康感に関わらず変化は見られなかった。

運動器の機能の変化

0~5点で評価(高い方が機能低下している)



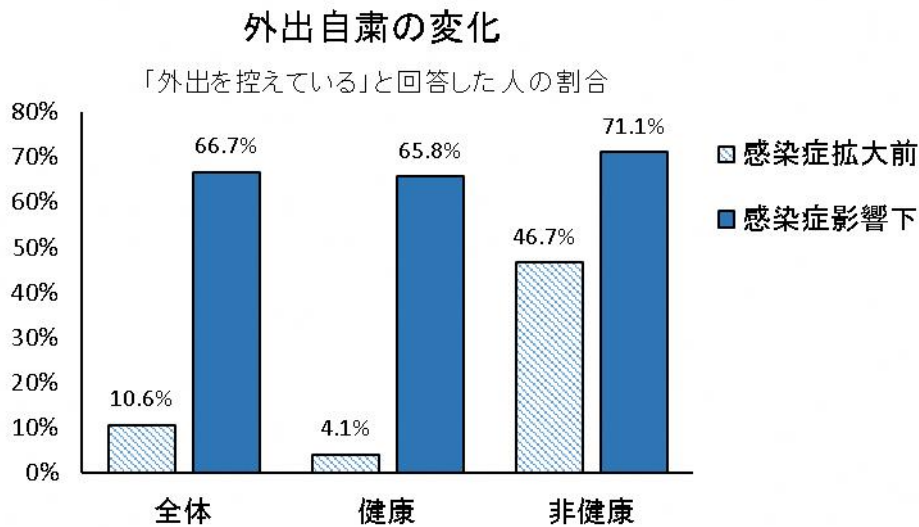
2. 【外出・交流】

外出回数や人との交流、サークルや地域活動の参加の減少などが見られた。
特に健康感の高い人で減少が顕著に見られた。

(外出自粛の変化)

外出自粛は、健康感に関わらず増加していた。

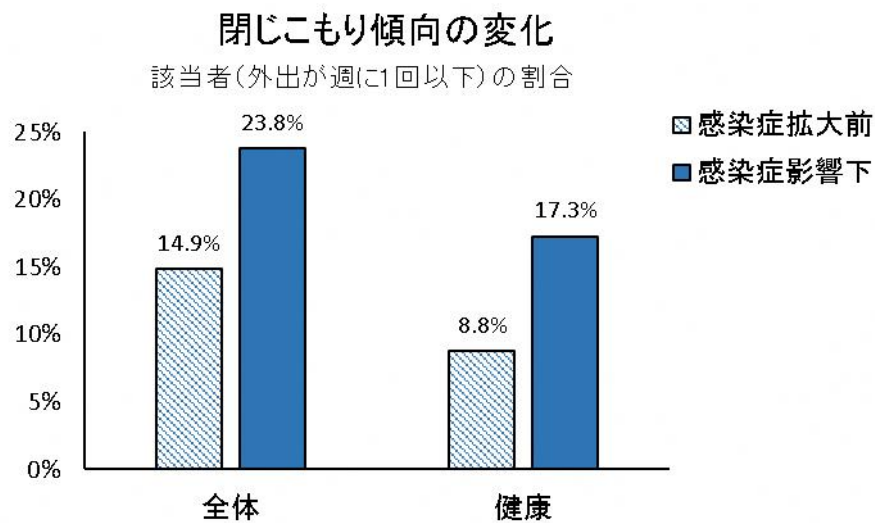
特に健康感の高い人では4.1%から65.8%と大きく増加していた。



(閉じこもり傾向)

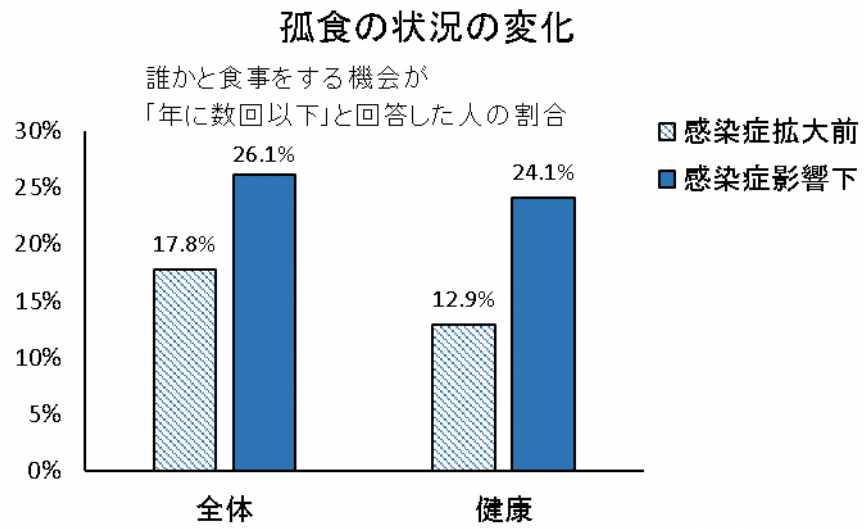
外出が週に1回以下の方は、全体と健康感の高い人で増加していた。

全体で8.9ポイント、健康感の高い人で8.5ポイント増加していた。



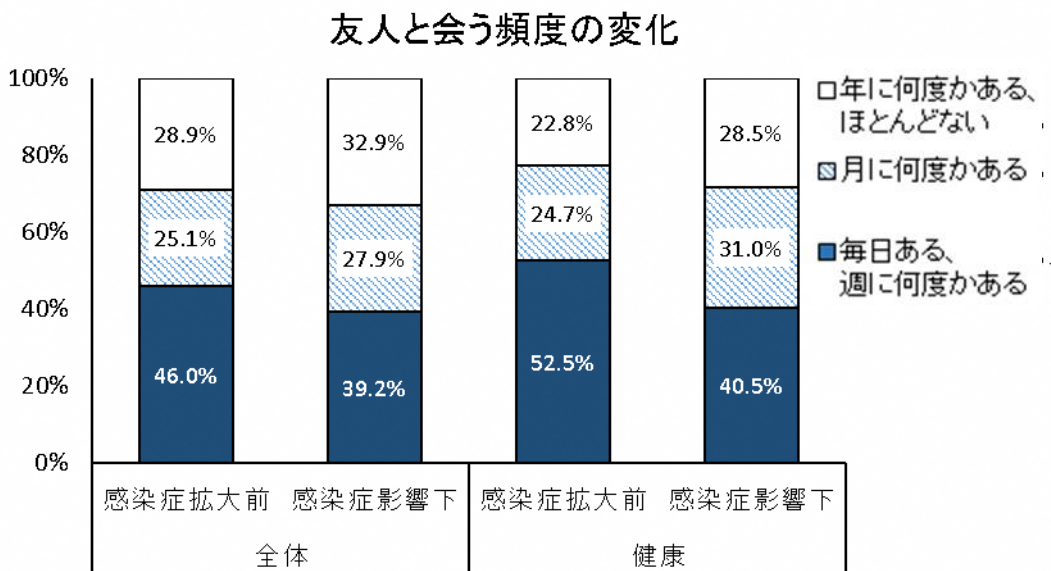
(孤食の状況の変化)

誰かと食事をする機会は、全体と健康感の高い人で減少していた。
健康感の高い人では 12.9%から 24.1%と 11.2 ポイント増加していた。



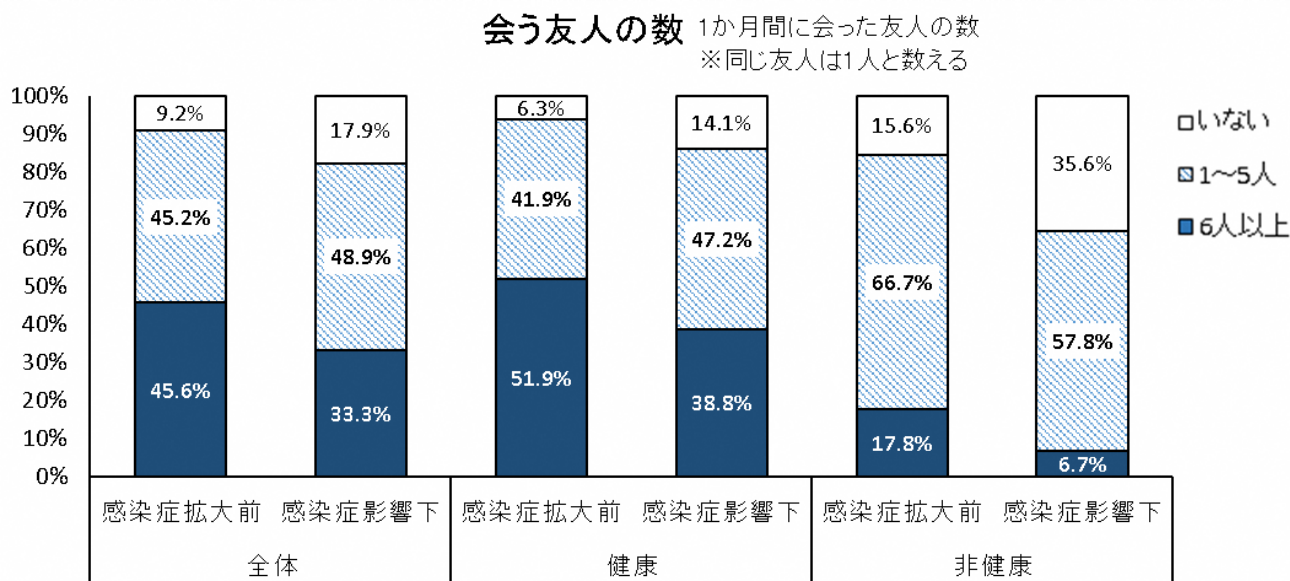
(友人と会う頻度の変化)

友人と会う頻度は、全体と健康感の高い人で減少していた。
健康感の高い人では「毎日ある」が52.5%から40.5%と12ポイント減少していた。



(会う友人の数の変化)

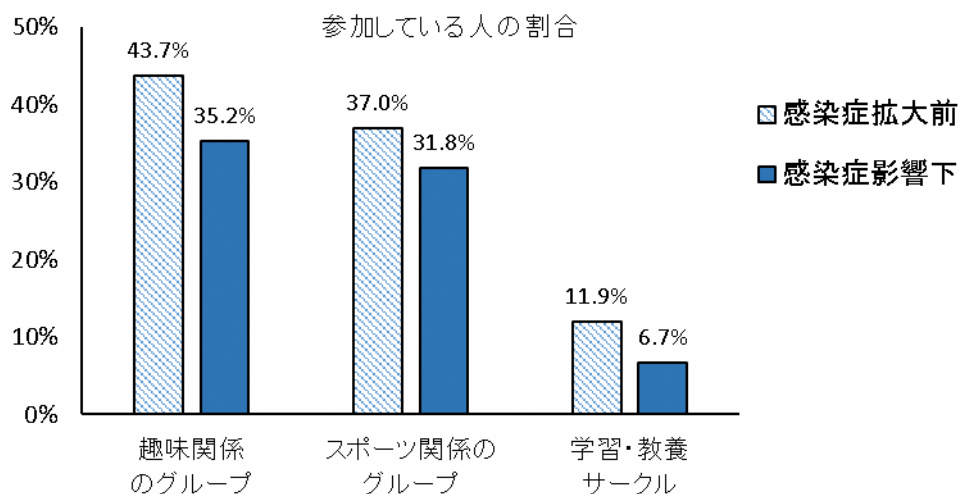
会う友人の数は、健康感に関わらず減少していた。
特に健康感の低い人では「いない」の増加幅が大きく、15.6%から35.6%と20ポイント増加していた。



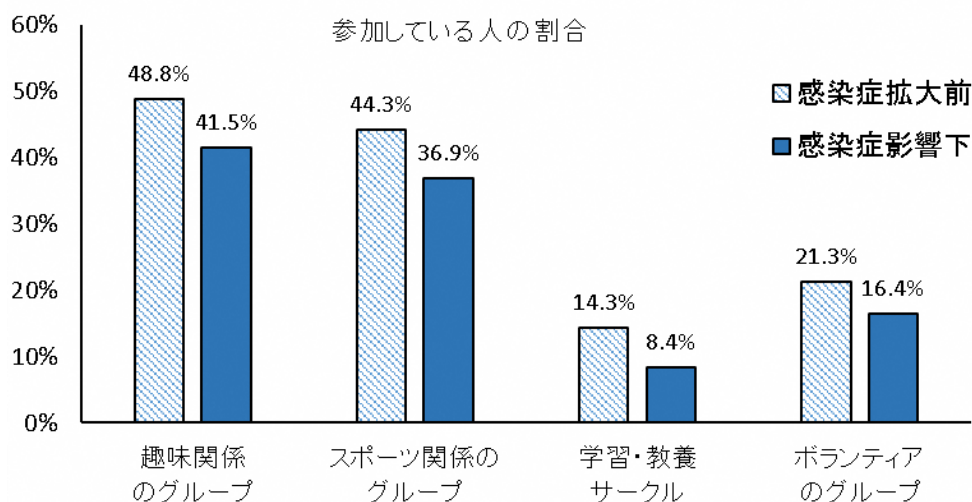
(社会参加活動の状況の変化)

サークル活動等の参加状況は、全体と健康感の高い人で減少していた。

社会参加活動の状況の変化【全体】



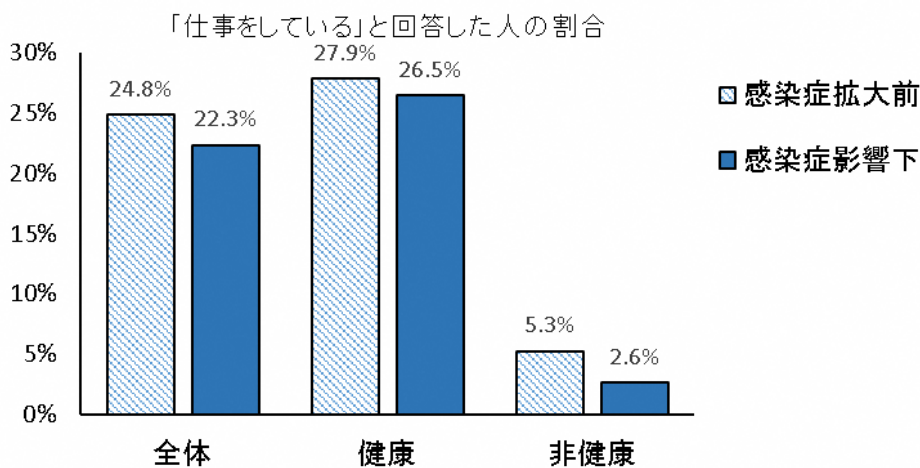
社会参加活動の状況の変化【健康感の高い人】



(収入のある仕事の状況の変化)

収入のある仕事の就業状況は、健康感に関わらず変化が見られなかった。

収入のある仕事の就業状況の変化

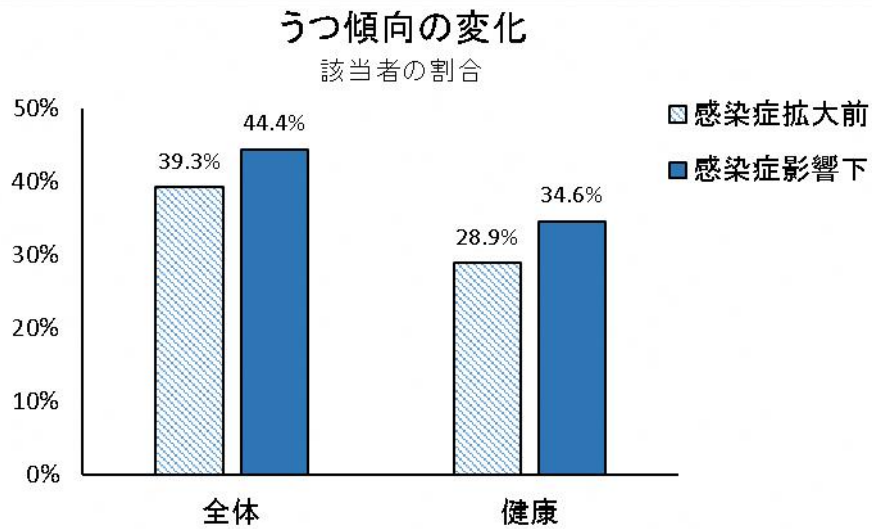


3. 【心の状態】

うつ傾向の増加、生きがいの減少などが見られた。
特に健康感の高い人で変化が顕著に見られた。

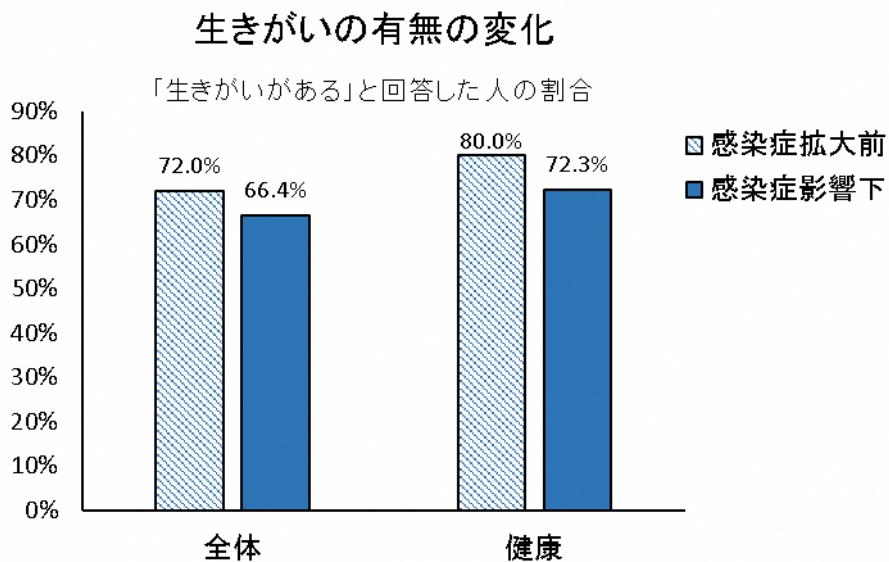
(うつ傾向の変化)

うつ傾向は、全体と健康感の高い人で増加していた。



(生きがいの有無の変化)

「生きがいがある」と回答した割合は、全体と健康感の高い人で減少していた。

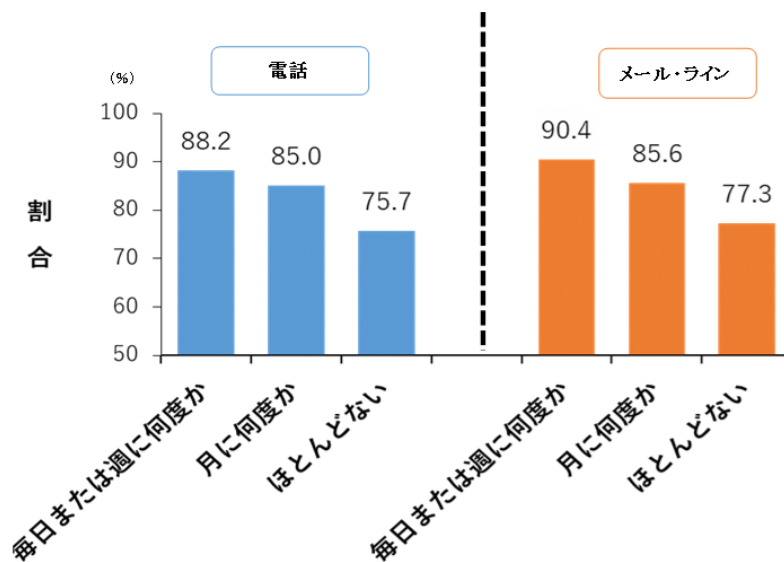


(友人・知人との電話/メール・ラインでの交流と健康)

電話/メール・ラインでの交流頻度が高いほど、主観的健康感も高かった。

友人・知人との電話/メール・ラインでの交流と健康

-健康と思う人の割合-

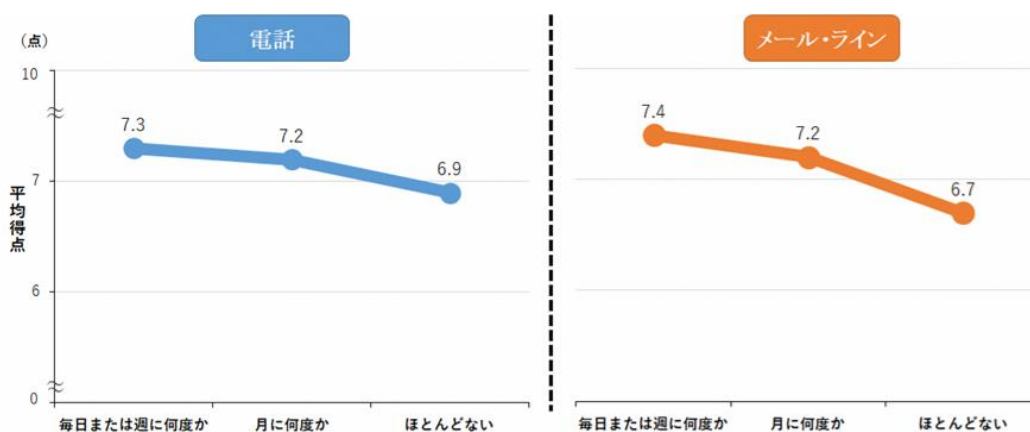


(友人・知人との電話/メール・ラインでの交流と幸福感)

電話/メール・ラインでの交流頻度が高いほど、主観的健康感も高かった。

友人・知人との電話/メール・ラインでの交流と幸福感

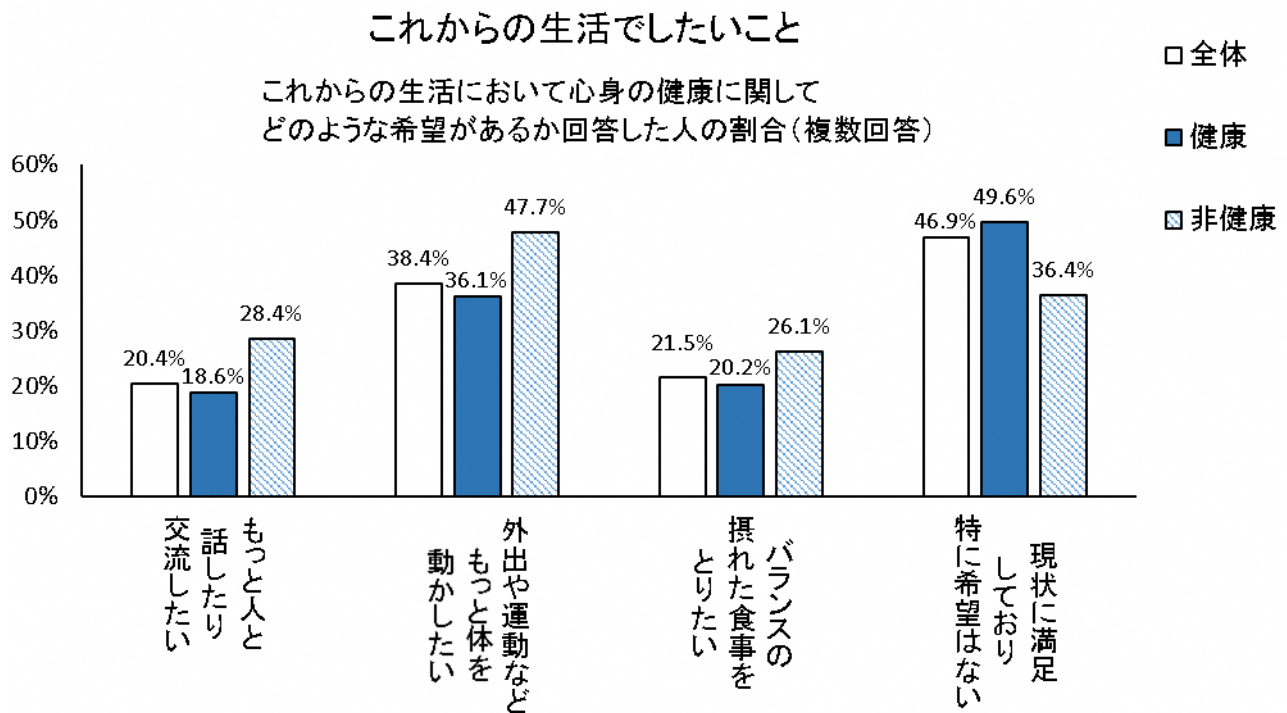
-平均値:10点満点-



4. これからの生活におけるニーズ

感染症影響下に実施した調査Ⅱで、これからの生活において『交流』『外出や運動』『食事』の希望について聞いたところ、健康感に関わらずいずれも約2割以上の希望があった。

特に「外出や運動など、もっと体を動かしたい」という『外出・運動』は健康感の高い人で36.1%、健康感の低い人で47.7%と高い希望が見られた。



【参考 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査※結果（抜粋）」

※ 令和2年5月25日～6月5日にインターネット調査により実施。全国の15歳以上の登録回答者10,128人から回答を得た。

（生活満足度の変化）

60歳以上の生活全体の満足度は、感染症拡大前では、他の年代よりも高いが、感染症影響下においては、若者の満足度を下回る水準まで低下している。

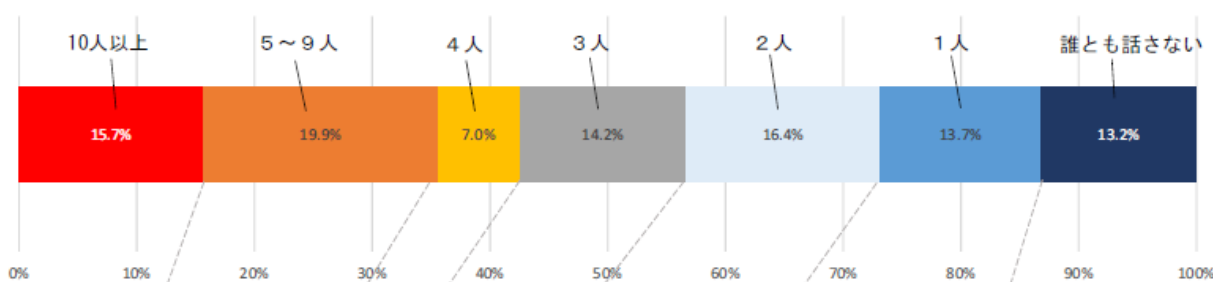
	感染症拡大前	感染症影響下	差
10歳代	6.03	4.60	▲1.43
20歳代	5.94	4.69	▲1.25
30歳代	5.92	4.53	▲1.39
40歳代	5.61	4.35	▲1.26
50歳代	5.67	4.22	▲1.44
60歳代	6.30	4.45	▲1.85
70歳代以上	6.60	4.63	▲1.97

「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とし、0～10点で評価

（高齢者の人との会話頻度の変化）

60歳以上の、同居する人以外に1日に会話した人数（対面、電話、ビデオ通話等を含む）は減少している。

質問 今回の新型コロナウイルス感染症拡大以前は、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していましたか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。



質問 今回の感染症の影響下において、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していますか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。

